

「交通」の追加資料

- １．江崎協議員の疑問について**
- ２．「交通の分析」の補足**
- ３．アクセス道路周辺の交通の状況**

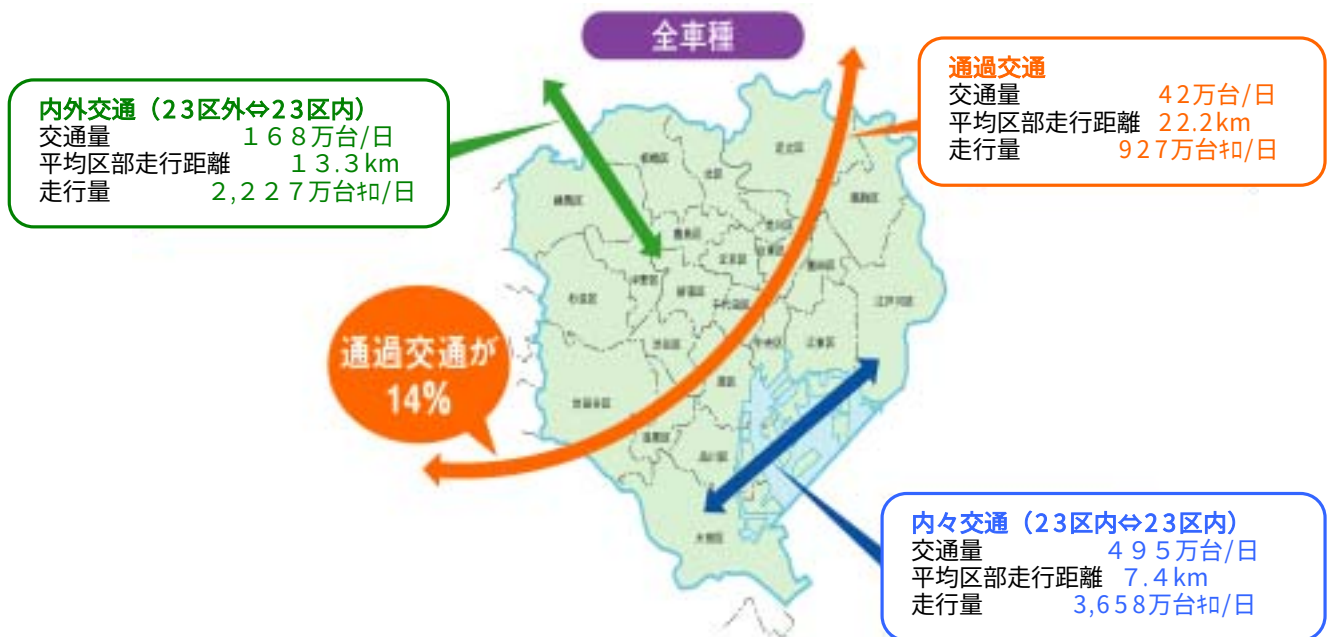
1. 江崎協議員の疑問について

疑 問

「通過交通」に疑問があります。

渋滞が緩和されないおそれがあります。

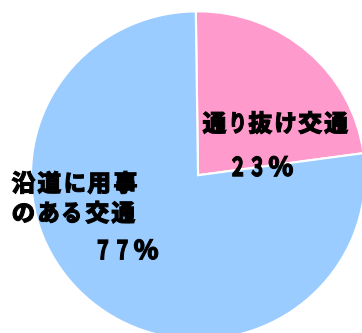
(1) 最新データに基づいても、通過交通は14%です。



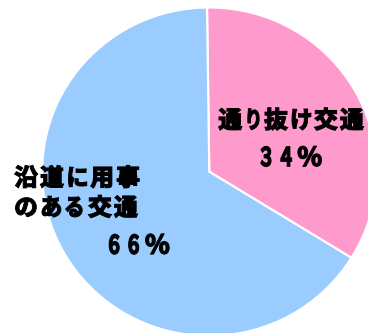
資料：平成11年度道路交通センサスを基にした推計値

(2) 環8、環7では、約3割が通り抜け交通です。

環状7・8号線（国道246号～目白通り）における通過交通の割合



環状8号線



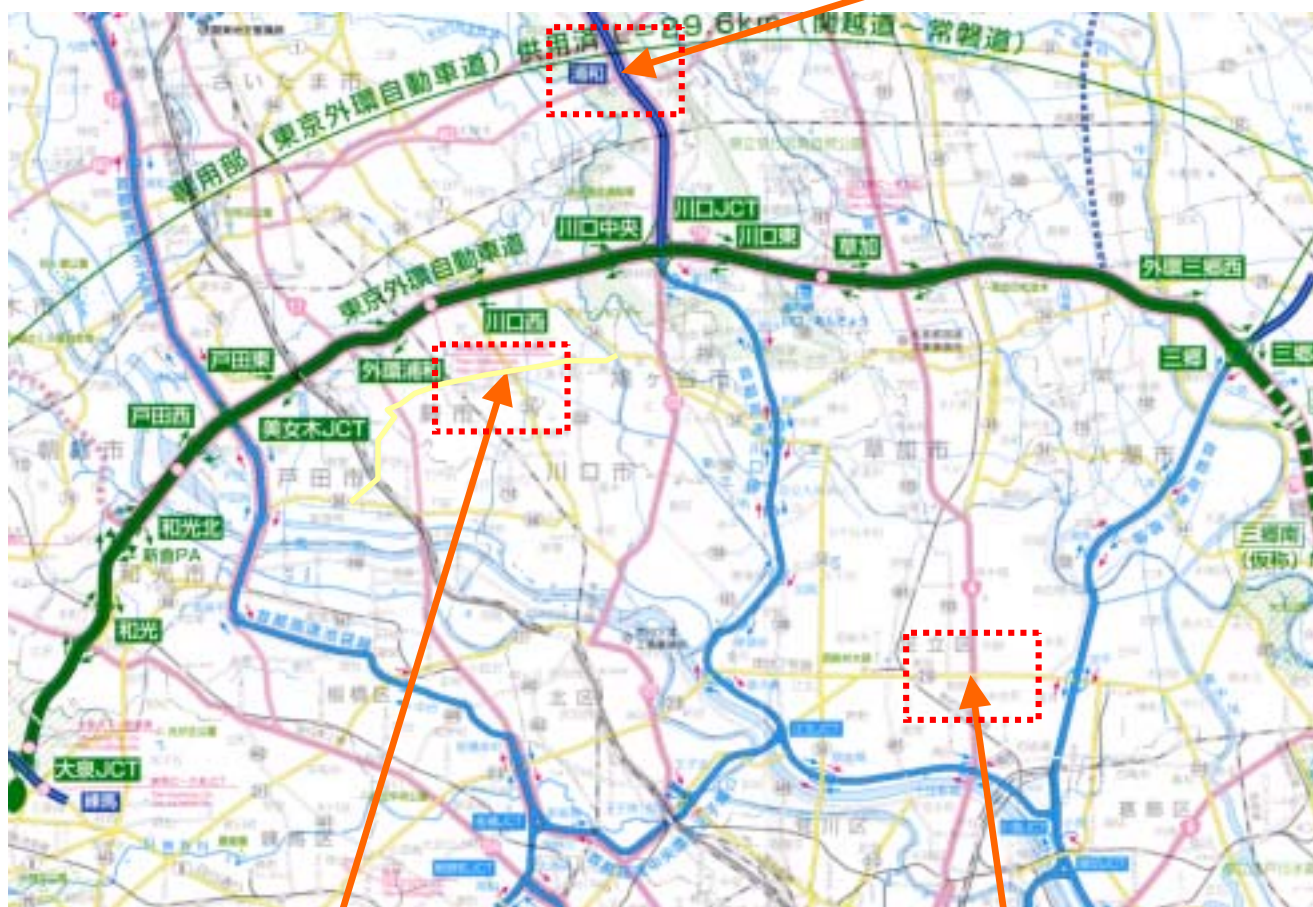
環状7号線

資料：通り抜け交通の割合は、平成12年国土交通省ナンバークレイト調査（実測値）
総交通量はH12.11.28実測値（東京都環境局）

(3) 外環道（埼玉区間）の開通で並行道路の交通量が減少しています。

国道463号（さいたま市大門）
13%減少
 (16,700台/日 ⇨ 14,600台/日)

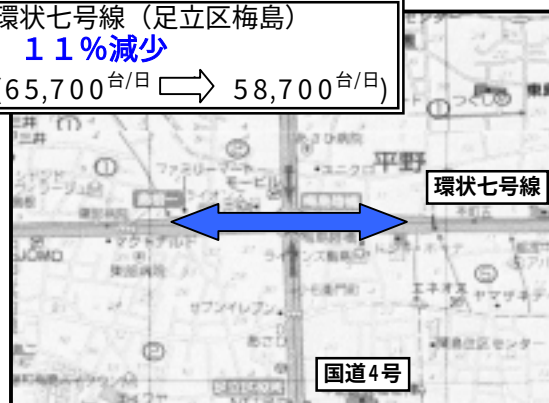
【観測日】
 (外かん開通前交通量 ⇨ 外かん開通後交通量)
 平成4年11月12日 平成10年11月18日



県道 蕨・鳩ヶ谷線（川口市芝）
30%減少
 (24,300台/日 ⇨ 17,000台/日)

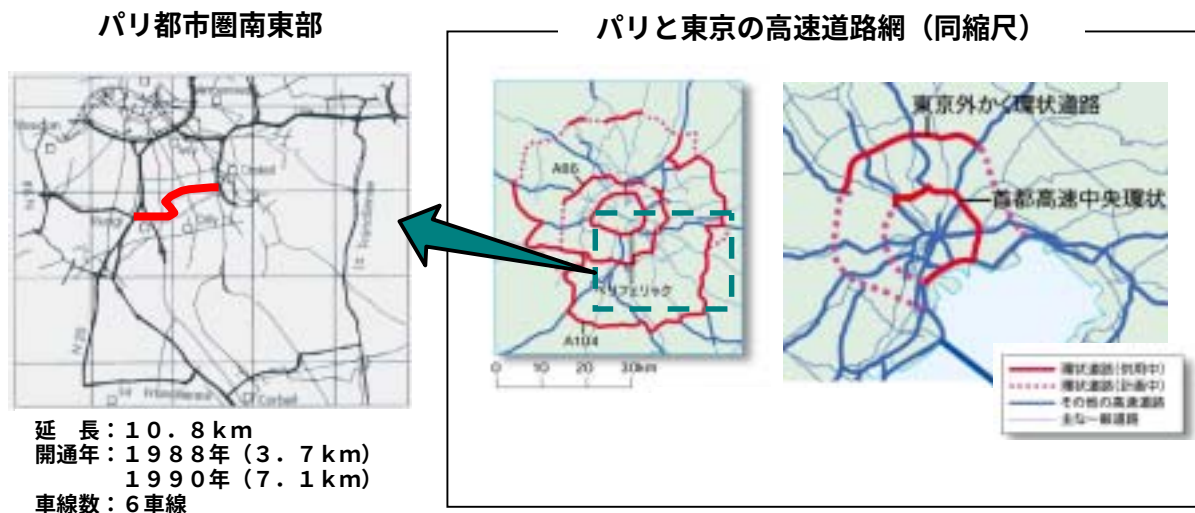


環状七号線（足立区梅島）
11%減少
 (65,700台/日 ⇨ 58,700台/日)



(詳細は、第10回協議会資料 資料－3 参照)
 (資料ファイルNo.1 効果P31～35)

(4) パリの環状道路の開通で、平行道路の交通量が減少しています。



パリ環状高速道路（A86）は、パリの中心部から約10～15kmに位置する環状道路で、そのうちの南東部分10.8kmが1990年までに開通した。



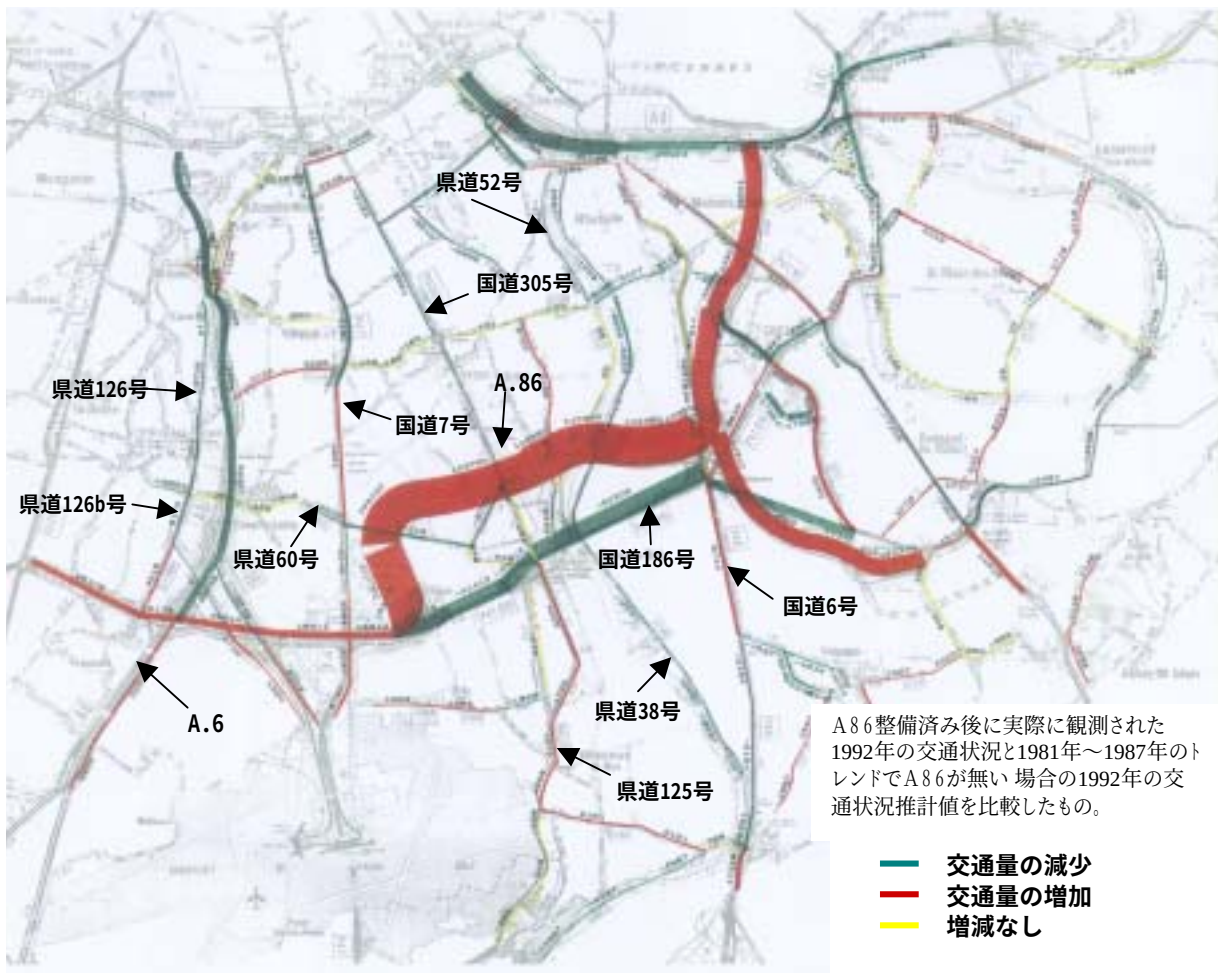
A.86 (高速道路)



RN.186 (国道186号線)

レポートからの抜粋

- 一般道路からA.86への交通量の転換が大きい。
- 交通量の減少は、国道186号線が最も大きい（52%～67%減少）。
- 国道7号線、県道38号線、県道126号線及び県道126b号線の一部区間の減少も大きい（18%～27%の減少）。
- また、国道305号線、県道60号線、県道52号線及び県道38号線の区間でも10%～15%の交通量減少が認められる。
- 交通量が増加したのは少数の幹線である。県道125号（26%の増加）、A.86の南側に位置する国道6号線と国道7号線がある。



資料：高速道路A.86号線に関する報告書（1998年12月）
イル・ド・フランス地域整備局、ヴァル・ド・マルヌ県整備局

2. 「交通の分析」の補足

推計の考え方

[現況の交通量] 平成11年10月7日観測の一般道の交通量図



コンピュータ上で交通
の流れを再現



交通の
「発生元と行
き先」、「経路」
を仮定。

「道路網」、
「料金体系」、
「経路選択」
等を仮定。

[外環道を入れてシミュレーション]

